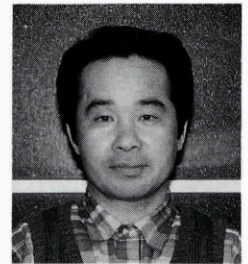




わたしのまちづくり

シリーズ②



宮本晴美 さん

(中村)

松尾俊明 さん

(中村)

家族のぬくもり

現在40歳前後の「団塊の世代」の人々が70歳前後になった時、高齢人口の比率がピークを迎えると予測されています。

三隅町も高齢者の方への対策は色々となされているようですが、現在の子供達が高齢者に対する意識をもっと深めて欲しいと思います。養護老人施設等の訪問で高齢者とかかわることから、老人への刺激にもなり、子供達へも思いやりや優しさが養われ、又人生経験も豊富な人から話を聞くことで学びとること多いのではないかと考えます。

子供達の高齢者に対する意識は、まずは家族の一人ひとりを大切にすることから始まると思います。子供にとって最も居心地のいい所は家族です。家族のぬくもりがあってこそ子供は外で嫌な事があっても癒されるものです。家族のぬくもりは、他にたとえようもない人間愛だと思います。

私も共稼ぎの家庭です。夫や子供、両親の協力があるからこそ仕事もできます。

町づくりは、温かい人づくりから始まり、基本はやはり家族や親子のつながりだと思います。

『人を活かすには』

この町に居を構えて、13年目の新春を迎えました。初夢に見た私の町づくりを大胆にも一筆。

最大の基本は“人”です。人口増加に、町外の人もこの町に住まわせよう。2DKといわず最低でも3LDK位の町営住宅を多数造り、格安の家賃で町内外に広く開放します。三隅町に行けば住む家は何とでもなると。

次には人材育成です。リーダーシップがとれる人材を多数育成することです。そのためには研修制度をつくり、最低一年以上各課より一人ずつ大企業に出向かせ勉強させます。(実地体験) 製造業・販売業・サービス業にです。こうすることによって「日本の社会はどのように生きているんだ」ということを、身をもって経験すれば、帰ってからの行政及び町作りに、ものすごく役立つと思います。

三番目として、各自治会に広場を作ろう。それも中心にです。300坪以上位のを。子供の遊び場・井戸端会議・ゲートボールの場と。コミュニケーションの場所は身近にあってこそ、その第一歩が始まるのです。隣近所から自治会へ、そして町全体にと広げていくのです。以上私の初夢でした。

新刊図書紹介

トレンセン図書室より

(子ども用)

「掛布雅之の楽しい野球」

掛布雅之・小峰書店

「三屋裕子の楽しいバレーボール」

三屋裕子・小峰書店

「奥寺康彦の楽しいサッカー」

奥寺康彦・小峰書店

「岡山恭崇の楽しいバスケットボール」

岡山恭崇・小峰書店

「小林繁の楽しい野球」

小林繁・小峰書店

「佐藤直子の楽しいテニス」

佐藤直子・小峰書店

(成人用)

「素肌タイプ別食べて効く簡単メニュー健康法」

飛石なぎさ・朝日出版社

「出雲からの挑戦」

岩國哲人・日本放送出版協会

「完全図解・しつけの事典」

小笠原清信・東陽出版(株)

(レクリエーション用)

「どきどき教室ゲーム101」

(株)ポプラ社

「わいわい運動場ゲーム101」

(株)ポプラ社

「おもしろ体育館ゲーム101」

(株)ポプラ社

「わくわく遠足ゲーム101」

(株)ポプラ社